休眠預金活用事業
「体験格差解消事業」
事後評価報告書

認定NPO法人Ocean’s Love

１.基本情報

実行団体名：特定非営利活動法人Ocean's Love
実行団体事業名：障害児等の体験格差解消事業
資金分配団体名：公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団
事業の種類：草の根活動支援事業
実施期間：2020年6月～2023年3月
事業対象地域：神奈川県茅ケ崎市

2.事業概要

①事業によって解決を目指す社会課題と想定される直接対象グループ

対象：知的障がい児・発達障がい児（小学1年生～高校3年生）

これまで私たちのサーフィンスクールに参加することで初めて海に入る児童もおり、障がいのある児童が海でのスポーツを体験できる環境は少ない。（障がい児の水辺の自然体験活動実施状況に関しては、調査自体されていない）
海での体験活動は、社会性を育み自立心を高める効果が期待され、子供の成長に欠かせないものであると考えられるが、保護者からは安心して任せられる団体が少ないという声も聞かれ、海での活動体験機会の少ない子供が存在し「体験格差」が生じている。

②事業の概要

■中長期アウトカム
知的障がい児、発達障がい児を対象に海における自然体験活動が推進され、子供の成長を促し、社会性や自立心を育む。
子どもたちの支援の環境づくりとインクルーシブ社会の地域モデルとなり、他地域の体験格差解消に寄与する。

■短期アウトカム
1．知的障がい児、発達障がい児が、海における体験活動を通じて、社会性や自立心などの向上が見え始めている状態となる。
2．知的障がい児、発達障がい児の保護者が、子どもを積極的に、海における体験活動プログラムに参加させる状態となる。
3．障がい児支援施設スタッフ、障がい児支援教育関係者が、子どもを積極的に、海における体験活動プログラムに参加させる状態となる。
4．学校や団体・企業等が、海における体験活動に連携・協力・支援し、現在の開催地以外で体験活動を開催できる状態となる。
5．本事業の資金分配団体や他の実行団体との連携が深まり、水辺の指導スキルやイベント運営ノウハウ等を共有し活動基盤の強化を図れる状態となる。
6．新型コロナウイルス感染症対策を講じたことにより知的障がい児、発達障がい児が安心して海における体験活動に参加できる状態となる。

■アウトプット

１．知的障がい児、発達障がい児が、海における体験活動に参加し、保護者以外と接する機会を持つ。
２．知的障がい児、発達障がい児の保護者が、海における体験活動について、その有効性を認識している状態となる。
３．障がい児支援施設スタッフ、障がい児支援教育関係者が、海における体験活動について、その有効性を認識している状態となる。
４．学校や団体・企業等が海における体験活動に関する興味を示す状態にする。
５．資金分配団体、実行団体間で活動状況を共有し、相互に活動状況を理解する。
６．新型コロナウイルス感染症対策を器材・設備等の拡充及び必要な人材配置をすることで三密対策等の安全対策を講じた事業が実施できている状態

■活動

1－1. 知的障がい児、発達障がい児に対する海における体験活動を行い、保護者以外と接する機会を提供する。
1－2. 当団体および資金分配団体が、障がい児支援団体等に広報活動・参加者募集活動を行う。
1－3. 休眠預金等からの助成により、自分たちの事業に合った知的障がい児、発達障がい児の海における体験活動に必要な器材等を整備する。
1－4. 当団体および資金分配団体により、ボランティアスタッフなどの外部サポーターの募集等を行うともに当団体で必要に応じ研修等を行う。
1－5. 当団体および資金分配団体が、海における体験活動に参加した子供に対し、事業の満足度や意識の変容等に関するアンケートやヒアリング調査を行う。
2－1. 当団体で、知的障がい児、発達障がい児の対象児童の保護者に対し、海における体験活動事業に関する広報活動を行う。
2－2. 当団体で、必要に応じ対象となる保護者に対する現地説明会を開催する。
2－3. 当団体および資金分配団体で、海における体験活動に参加した保護者に対し、事業の満足度や意識の変容等に関するアンケートやヒアリング調査を行う。
3－1. 当団体で、障がい児支援施設等のスタッフに対し、海における体験活動事業に関する広報活動を行う。
3－2. 当団体で、必要に応じ施設等のスタッフに対する現地説明会を開催する。
3－3. 当団体で、海における体験活動に参加したスタッフに対し、事業の満足度等に関するアンケートやヒアリング調査を行う。
4－1. 当団体で、学校や団体・企業等に対し、海における体験活動の協力等に関する広報活動を行う。
4－2. 当団体で、必要に応じ学校や団体・企業等に対する現地説明会や訪問説明を行う。
4－3. 当団体で、メディアに対して掲載依頼活動を行う
5－1. 資金分配団体を交えて、実行団体間のネットワークを形成するための情報交換等を行う。
5－2. 資金分配団体により、我々実行団体や連携協力団体に、他の実施事例や参加者の感想等に関する情報提供を依頼する。
6－1. 当団体で、神奈川県が定める新型コロナウイルス感染拡大防止対策をもとにしたガイドラインを作成する6－2. 当団体で、1回の参加人数を減らして実施回数を増やして開催する。
6－3. 当団体で、新型コロナウイルス感染拡大防止のために必要な器材、備品を準備する。
6－4. 当団体で、新型コロナウイルス感染拡大防止を図りつつ安全な運営が出来る体制を構築する。

③出口戦略

本事業では当団体が主に週末にイベントを主催し、都度参加者を募り体験してもらっていた。安定的且つ継続的に活動できる環境を整備するため、平日の放課後にも受け入れられるよう、放課後等デイサービスを立ち上げ、利用者として児童を受け入れていく。

3.事後評価実施概要

（1）実施概要
①どんな変化をこの事業の重要なポイントとして設定し評価を実施したのか
・参加児童の社会性や自立心の向上
・保護者視点での継続参加意欲

②どんな調査で測定したのか
＜調査①参加児童へのアンケート調査＞
１）調査方法
アンケート調査
＜調査項目＞
・児童用自尊感情尺度
・生き抜く態度尺度
・学校生活スキル尺度(コミュニケーション)
・児童用自己効力感尺度
・子ども用包括的ストレス反応尺度
・生活充実感尺度
２）調査実施時期
2020年6月～2022年10月
３）調査対象者
事業の対象となった139人にアンケート配布。
回収者数75人（回収率53.9％）であった。

＜調査②保護者へのアンケート調査＞
１）調査方法
アンケート調査
・参加満足度
・継続参加意欲
・感想
２）調査実施時期
2020年6月～2022年10月
３）調査対象者
事業の対象となった139人にアンケート配布。
回収者数69人（回収率49.6％）であった。

3.事後評価実施概要
（2）実施体制（内部/外部、評価担当役割、氏名、団体・役職）

＜内部＞
特定非営利活動法人Ocean's Love
理事長：鈴木薫（統括）
スクール事業統括責任者：伊藤良師（企画・分析）
スクール担当：藤岡陽子（アンケート実施）

＜外部＞
新潟青陵大学短期大学部　准教授：時本英知（分析）

4.事業の実績
4-1インプット（主要なものを記載）
（1）人材
内部：合計5名（スクール代表者 1名、運営担当者 1名、運営サポート 3名）
外部：合計1人（運営アドバイザー）

（2）資機材（主要なもの）
サーフボード4枚、ウエットスーツ10着、スピーカー1台

（3）経費実績　助成金の合計　3,719,000円

（4）自己資金（円）
①実際に投入した自己資金の金額　1,457,648円
②資金調達で工夫した点
継続的に安定した資金調達をするため、マンスリー個人寄付をキャンペーンとして募集。190人の応募があった。

4-2活動とアウトプットの実績
（1）主な活動
①サーフィン体験
サーフィンの説明、砂浜での動作練習、実際に海でのサーフィン体験を行う約1時間のサーフィン体験プログラム。ボランティアさんのサポートのもとで実施。
2020年～2022年　16回開催　場所：神奈川県茅ケ崎市ヘッドランドビーチ

②ビーチトレーニング
冬場にサーフィンが出来ない時期に行うビーチでのトレーニングプログラム。
サーフィンの動きを取り入れた体幹トレーニングや、
サーフボードを使ったアトラクションなどをボランティアさんと一緒に行う。
2020年　1回開催　場所：神奈川県茅ケ崎市ヘッドランドビーチ

③オンラインサーフトレーニング
コロナ禍でイベント活動を行えない際に、ビーチトレーニングの内容をオンラインで実施したプログラム。
2020年～2021年　6回開催　場所：Zoomオンライン

4-2活動とアウトプットの実績
（2）アウトプットの実績
①アウトプット　②指標　③初期値　④目標値　⑤目標達成時期

アウトプット	指標	初期値/初期状態	目標値/目標状態	目標達成時期
1．知的障がい児、発達障がい児が、海における体験活動に参加し、保護者以外と接する機会を持つ。	①海における体験活動に参加した対象となる子供の数 ②海における体験活動に参加するサポーターの数	①24人(実数) ②84人(延べ)	①48人(実数) ④168人(延べ)	2022年10月
2．知的障がい児、発達障がい児の保護者が、海における体験活動について、その有効性を認識している状態となる。	①海における体験活動を見学した保護者の満足度 ②保護者から見た子供の社会性の育成や自立心の向上などの変容	①満足度調査（2020年度実施後の調査） ②保護者から見た子供の社会性の育成や自立心の向上などの変容（2020年度実施後の調査）	①満足度調査（2022年度実施後の調査） ②保護者から見た子供の社会性の育成や自立心の向上などの変容（2022年度実施後の調査）	2022年10月
3．障がい児支援施設スタッフ、障がい児支援教育関係者が、海における体験活動について、その有効性を認識している状態となる。	海における体験活動を見学した障がい児支援施設スタッフ、障がい児支援教育関係者が参加した子どもの様子を観察したうえでの満足度	満足度調査（2021年度実施後の調査）	満足度調査（2022年度実施後の調査）	2022年10月
4．学校や団体・企業等が海における体験活動に関する興味を示す状態にする。	①海における体験活動に関するメディア露出の数 ②海における体験活動開催に関して当団体に問い合わせをする学校・団体・企業等の数	①なし ②なし	①毎年度新たに5媒体 ②毎年度新たに3団体	2022年10月
5．資金分配団体、実行団体間で活動状況を共有し、相互に活動状況を理解する。	①資金分配団体との活動状況を共有する会議の回数 ②他の実行団体との情報交換を行う会議等の回数	①2020年度に年10回開催予定 ②2020年度に1回開催予定	①2021年度以降に年16回以上開催 ②2021年度以降に年2回以上開催	2022年10月
6．新型コロナウイルス感染症対策を器材・設備等の拡充及び必要な人材配置をすることで三密対策等の安全対策を講じた事業が実施できている状態	神奈川県が定める新型コロナウイルス感染防止対策取組を遵守している状態	新型コロナウイルス感染症の安全対策が不十分な状態	新型コロナウイルス感染症の十分な安全対策を講じて事業を実施している状態	2021年7月

（2）アウトプットの実績
⑥実績

アウトプット	指標	目標値	実績値
1．知的障がい児、発達障がい児が、海における体験活動に参加し、保護者以外と接する機会を持つ。	①海における体験活動に参加した対象となる子供の数 ②海における体験活動に参加するサポーターの数	①48人(実数) ②168人(延べ)	＜参加人数＞ ①計138人(実数) ②計240人(延べ) 2022 ①69人 ②106人 2021 ①30人 ②64人 2020 ①39人 ②70人
2．知的障がい児、発達障がい児の保護者が、海における体験活動について、その有効性を認識している状態となる。	①海における体験活動を見学した保護者の満足度 ②保護者から見た子供の社会性の育成や自立心の向上などの変容	①満足度調査 ②保護者から見た子供の社会性の育成や自立心向上などの変容	①保護者満足度 とても満足 91.3% ②保護者からみた子どもの社会性・自立心変容 とてもそう思う 85.5%
3．障がい児支援施設スタッフ、障がい児支援教育関係者が、海における体験活動について、その有効性を認識している状態となる。	海における体験活動を見学した障がい児支援施設スタッフ、障がい児支援教育関係者の満足度	満足度調査	満足度 100% 2022 100%
4．学校や団体・企業等が海における体験活動に関する興味を示す状態にする。	①海における体験活動に関するメディア露出の数 ②海における体験活動開催に関して当団体に問い合わせをする学校・団体・企業等の数	①毎年度新たに5媒体 ②毎年度新たに3団体	①計5媒体 ②計5団体 2022 ①0媒体 ②2団体 2021 ①3媒体 ②3団体 2020 ①2媒体 ②0団体
5．資金分配団体、実行団体間で活動状況を共有し、相互に活動状況を理解する。	①資金分配団体との活動状況を共有する会議の回数 ②他の実行団体との情報交換を行う会議等の回数	①2021年度以降に年16回以上開催 ②2021年度以降年2回以上開催	①計32回 ②計4団体 2022 ①16回 ②2回 2021 ①16回 ②2回
6．新型コロナウイルス感染症対策を器材・設備等の拡充及び必要な人材配置をすることで三密対策等の安全対策を講じた事業が実施できている状態	神奈川県が定める新型コロナウイルス感染防止対策取組を遵守している状態	新型コロナウイルス感染症の十分な安全対策を講じて事業を実施している状態	十分に感染対策を講じて実施している 保護者アンケート 安心度 97.1% (とても安心・安心)

4 -3外部との連携の実績

■他地域での開催：2021年、2022年に北海道北斗市、愛知県田原市にて開催。
(主催)現地団体、(協力)Ocean’s Loveとしてスクール運営方法やボランティア募集を協力。

■市民ボランティア参加：2020～2022年 延べ240名
市民参加セミナーに団体スタッフが登壇した際に説明を行ったり、SNS上で募集。

■企業からの社員ボランティア参加：新規1社
地域で活動を支えてもらうため地元企業1社から新規で3名参加いただいた。

■企業からの寄付支援：新規3社

5.アウトカムの分析
5－1 アウトカムの達成度
（1）短期アウトカムの計画と実績

①短期アウトカム	②指標	③初期値/初期状態	④目標値/目標状態	⑤目標達成時期	⑥発現状況（実績）
1．知的障がい児、発達障がい児が、海における体験活動を通じて、社会性や自立心などの向上が見え始めている状態となる。	社会性の育成や自立心の向上	子供の社会性や自立心などに対する意識の変容（ベースライン調査）	子供の社会性や自立心などに対する意識の変容（エンドライン調査を行いベースラインと比較する）	2022年12月	社会における自尊感情や、生き抜く態度におけるチャレンジ精神が向上している傾向がみられた。
2．知的障がい児、発達障がい児の保護者が、子どもを積極的に、海における体験活動プログラムに参加させる状態となる	海における体験活動への子どもたちの継続参加を希望する障がい児の保護者の意欲	保護者の子どもを継続参加させる意欲（2020年度実施後の調査）	保護者の子どもを継続参加させる意欲（2022年度実施後の調査）	2022年12月	とてもそう思う95.2% 2020 87.5% 2022 95.2%
3．障がい児支援施設スタッフ、障がい児支援教育関係者が、子どもを積極的に、海における体験活動プログラムに参加させる状態となる。	海における体験活動に継続して子どもたちの参加を希望する障がい児支援施設スタッフ、障がい児支援教育関係者の意欲	障がい児支援施設スタッフ、障がい児支援教育関係者の子どもを継続参加させる意欲（2021年度実施後の調査）	障がい児支援施設スタッフ、障がい児支援教育関係者の子どもを継続参加させる意欲（2022年度実施後の調査）	2022年12月	とてもそう思う100% 2022 100%
4．学校や団体・企業等が、海における体験活動に連携・協力・支援し、現在の開催地以外で体験活動を開催できる状態となる。	①海における体験活動を新たに連携・協力・支援する学校や団体・企業等の数 ②現在の開催地以外で体験活動を新たに開催する地域の数	①なし ②なし	①初期値より4団体増加 ②初期値より2地域増加	2022年12月	①4団体 企業ボランティア1社 寄付支援 3社 ②2地域 北海道北斗市 愛知県田原市
5．本事業の資金分配団体や他の実行団体との連携が深まり、水辺の指導スキルやイベント運営ノウハウ等を共有し活動基盤の強化を図れる状態となる。	①資金分配団体の当団体の活動基盤強化への関与度 ②実行団体間での活動基盤強化への相互の関与度	①当団体の活動内容を理解してもらう状態 ②実行団体間で相互に活動内容を理解する状態	①当団体へ指導、運営に関する情報提供、アドバイスをしてもらう ②実行団体間で相互に指導、運営に関する情報提供、アドバイスをする	2023年3月	①B&G財団に実際に活動を見学いただき、他団体の情報や活動に関する資材を提供いただいた。 ②全体会議においてボランティア参加、評価方法、出口戦略に関して情報提供、アドバイスを相互に行った。
6．新型コロナウイルス感染症対策を講じたことにより知的障がい児、発達障がい児が安心して海における体験活動に参加できる状態となる。	イベント中の新型コロナウイルス感染症対策に対する参加者保護者による安心感	新型コロナウイルス感染に対して少なからず不安がある状態	参加後に新型コロナウイルス感染症対策に対する不安点の指摘なし	2021年7月	指摘1点 「テントが1つしかなかったので、雨が降ってきた際にテント内には家族が集まり密になってしまった。」

5.アウトカムの分析

5－1 アウトカムの達成度

（2）アウトカム達成度についての評価

参加児童の社会性、自立心の変容に関して、体験活動の参加前後でポジティブ、ネガティブ両面での傾向がみられた。社会における周囲とのコミュニケーションに関して自尊感情が向上しており、体験活動のなかでスタッフや初対面のボランティアとのコミュニケーションを取れたことが自信につながっていると考える。逆に身体的な自尊感情は低下しているが、これはサーフィンの難易度が高く、自分の想像より上手くできなかったと感じているのではないかと想像する。これは継続的に体験し、スキルが付いてくることで向上できると考える。

保護者視点からは85％以上が活動に参加したことで児童の社会性向上に関してポジティブな影響があったと感じている。同時に95%以上の保護者が継続的な参加意欲を持っている。

参加者（現状では保護者）を対象としたアウトカムは達成度が高いと評価できる。

一方で、既参加者以外のステークホルダー（学校や施設、団体など）に対しては、参加意欲を醸成することが出来ず、アプローチ、訴求方法に課題を残した。

5－2 波及効果（想定外、波及的・副次的効果）

コロナ禍によって対面活動から移行しオンライン活動を行い、全国に募集範囲を広げ、関東以外からも北海道や東北から参加者があった。

活動のなかで地域の特色が分かるようなクイズや、活動の合間に雪を見せてもらうなどを行った。この回の感想として「なかなか旅行にいく機会がないので、遠い地域のお友達と出会えたり、その地域のことを知る機会が持ててよかったです」といったものがあった。

障がいのある児童にとっては、海での体験格差だけでなく、移動の困難などによる保護者の負担が大きいことに起因する旅行の体験格差もあるのではないかと考える。

「子ども時代に家族旅行の経験が多かった人ほど、自主性やコミュニケーション力が高く、精神が安定している。」（成長期の家族旅行経験とその影響に関する調査報告：2010 森下晶美）という調査結果が出ているように子どもの成長にとって重要な体験活動である。

5－3 事業の効率性

心理的変容調査については、集計は団体内で行い、分析を外部に委託することで費用面での効率性を上げた。ただ継続参加するお子さんの確保、アンケート内容への回答が難しいお子さんもおり、期待した回答数を得られなかった。

アウトカムのひとつである「他地域への波及」については、運営方法などノウハウの提供、告知協力などソフト面での協力をすることで、資金やハード面での負担を抑え効率的に実施できた。

また、本事業の直接事業費/活動費のなかで、サーフボードやウエットスーツ、リヤカーなど耐用年数が長いものが多く、助成終了後に継続する活動でも活用できる。

6.成功要因・課題

海での活動を体験してもらうことで、参加児童の「社会性や自立心の向上」を促すことが出来た。
波、風のコンディションが整いづらく、物理的にも不安定な海のなかでのサーフィンにチャレンジすること自体が大変な挑戦であり、出来たときには大きな自信となる。
また仮に失敗したとしても、ポジティブな声掛けをし続けることによってさらなるチャレンジを促し、また自己肯定感を保つことができたと考える。

社会性の向上という部分では、参加児童とボランティアが接する時間を持つ工夫をした。
活動中の指導体制としては1-3名の児童に対し 6-7名のボランティアがサポートし、チームとして活動した。
またサーフィン体験以外にも、お互いの自己紹介や写真撮影などで交流ができる時間を持った。

海を楽しみ体験はもちろん、家族や学校の先生以外との他者とのコミュニケーションが作れる場としても保護者にも評価いただき継続的な参加意欲に繋がっていると考える。

一方で、学校や福祉施設からの参加を促進することができなかったが、活動参加への決定権者は保護者となることが多く、WEB・SNS、チラシ等によって保護者へ直接アプローチが出来ている現状では問題ないと捉えている。

7.結論

7-1 事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価

	多くの改善の余地がある	想定した水準までに少し改善点がある	想定した水準にあるが一部改善点がある	想定した水準にある	想定した水準以上にある
(1)事業実施プロセス				○	
(2)事業成果の達成度			○		

7-2 事業実施の妥当性

事前評価にも記載したが、自然活動を多く体験した子どもは、少ない子どもに比べ、課題解決能力や協調性、思いやりの気持ちが高いという調査結果（自然体験活動の成果と意義 ：信州大学 平野義直）も出ており、子どもの豊かな人間性構築には欠かせないものと言える。またスポーツも同じく、子どものライフスキルを育むものである。
サーフィンは自然体験とスポーツの両側面を有しているが、障がいのある子どもたちが気軽に体験できる環境は整っておらず体験格差があると考える。
知的障がい、発達障がいのあるお子さんへのサーフィンのニーズとしては、コロナ禍当初の2020年は定員を切る回もあったが2021年以降は各回ごとに1倍～1.4倍と定員を超える申し込みを頂いた。
また出口戦略として考えていた放課後等デイサービスを2021年10月より開所したが、サーフィンの実施を1週間のうち水曜、土曜に限定し、そのほかの曜日は室内での運動プログラムとしたところ、水曜・土曜に申込が集中しこちらもキャンセル待ちが出ることになった。
当初の想定以上の希望者をなるべく多く受け入れるために、安全性を担保しつつ、少ないサポート人数で多くの児童を体験できる体制を構築して対応した。
具体的には、子どもたちを2-4名で1チームにして、「1人ずつ順番に海に入る」方式にすることで同時に海に入っている子どもの数を少なくし、少人数でも実施できる体制とした。このことで1人だけでサーフィンするときに比べ、「順番を守る」「協調性」を持つことにつながる副次的な効果もあった。

一方で評価の手法には課題が残った。
アンケートに回答することが難しい児童も多く、想定した量のデータを確保することが出来なかった。
本人の回答だけでなく、保護者、スタッフ、ボランティアまたはその後の学校生活における変化を先生に考察していただくことも分析に取り入れることが改善点となる。

8.提言

本事業を継続していくために茅ケ崎市に放課後等デイサービスを開設した。
これにより、保護者の経済的負担を抑えつつ、参加児童は平日も含め、安定的に海の活動を体験できる環境が整備できる。

＜参加者自己負担額＞
イベント型　　毎回 5,000円
放課後等デイサービス　　毎月 4,600円（何度参加しても定額）

※放課後等デイサービスの自己負担額は世帯の所得に応じて「負担上限月額区分」が設定

区分	世帯の収入状況	負担上限額
生活保護	生活保護受給世帯	0円
低所得	市町村民税非課税世帯	0円
一般１	**市町村民税非課税世帯（概ね年収890万円以下）**	**4,600円**
一般２	上記以外	37,200円

放課後等デイサービスでは6-10月の水曜日と土曜日をサーフィンにしており、両日利用の場合には1シーズンで30回以上体験できる。また冬のシーズンにはビーチでのトレーニングや、サーフィンが上達するための室内トレーニングを行う。
本事業でも実施した心理的変容調査を継続的に行っていく体制づくりが今後の課題である。

9.知見・教訓

・本事業では事前に実施内容をメール等で伝えることで参加者に見通しを付けてもらった。一方で放課後等デイサービスでは、サーフィンの概要や安全対策の座学、ウエットスーツの着用体験、室内でのサーフィン動作の練習などのステップを経たことで、よりスムーズに海の体験活動に入ることができた。
・平日にも実施する場合には、ボランティア確保は難易度が高く、まずは団体スタッフだけでも成立する体制を構築する必要がある。また週末と平日の実施内容を変えることもひとつの手段。
・自然のなかでの活動になるため、天候や海の状況によっては開催出来ない場合がある。ビーチや屋内、またはオンラインでの代替プログラムも必要となる。

https://wave.popin.cc/

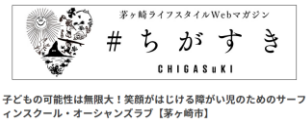
添付資料

メディア掲載資料

＜2020年度＞
■「T*SALON」（WEB）
アスリートが社会で活躍する様々な方と対談するWEB音声コンテンツ。
有森裕子×鈴木薫（NPO法人Ocean's Love理事長）『ノーマライゼーションの社会づくり』について
2021年1月4日、11日、18日、25日 計4回連載
https://wave.popin.cc/

■「COMUGICO」（WEB）
支援が必要な子どもたちに関する情報サイト
https://comugico.info/introduce/oceanslove/?fbclid=IwAR1C0vGyxnCT8mbyqMD1RsDj_CBkcgvjfyRVUW63JioizALjdXU9xSAmzp0
2020年10月1日掲載

＜2021年度＞
■茅ヶ崎ライフスタイルWebマガジン「#ちがすき」（WEB）
https://rarea.events/event/115527?fbclid=IwAR3akAbLDOqPkJR0K-Y7Tn8UXL1DFhHYt9NeEweWago2tNIdajsihBJXV5Q
2021年6月24日掲載



■こどもタウンニュース（フリーペーパー）
　茅ケ崎市内の全小中学校に配布

■WEB番組「Good Moning Mirai」
https://www.youtube.com/watch?v=DmIxrsccdvE&list=PLXEbfI7SetThpeXzrnoHHosgLOsGvhRUJ&index=53
2021年11月1日O.A.

海での体験活動を通した
参加者のココロの変容調査の結果

認定NPO法人Ocean’s Love

調査協力者の概要

- 調査協力者数
  - プログラム前：3名（男性2名、女性1名）
  - プログラム後：3名（男性2名、女性1名）

- 調査協力者の平均年齢
  - プログラム前：11.67 歳
  - プログラム後：13 歳

結果　問1.自尊感情（全般）について

		プログラム前					プログラム後				
No.	質問項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Ｑ１－２	私は、今の自分が好きだ。	3	3	4	3.33	0.58	3	3	4	3.33	0.58
Ｑ１－８	私は、自分のことを大切な人だと思う。	3	3	4	3.33	0.58	3	4	4	4	0.00
Ｑ１－４	私は、得意なことや自慢できることがある。	2	3	3	3	0.00	3	3	4	3.67	0.58
Ｑ１－１０	私は、自慢できることが一つもない。※	3	3	4	3.67	0.58	2	1	4	2.5	2.12
	平　均				3.33					3.38	

※は反転項目のため、回答を反転集計（数値が高いほどそのように思っていない）

- Q1-8がプログラム後に向上している《活動を通して、スタッフや仲間の関わりが影響したか？》
- Q1-10がプログラム後に低下している《自尊感情（身体）と関係しているか？》
- 全体で確認するとプログラム前後で大きな変化見られない

結果　問1.自尊感情（学業）について

		プログラム前					プログラム後				
No.	質問項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q１−１	自分の成績は、よいと思う。	3	2	4	3.33	1.16	3	3	4	3.67	0.58
Q１−３	私は、学習のやり方がよく分からない。※	3	1	4	2	1.73	3	1	4	2	1.73
Q１−５	私は、勉強があまり得意ではない。※	3	1	4	2	1.73	3	1	4	2.67	1.53
Q１−７	私は、勉強をするときに時間がかかる。※	3	1	4	2	1.73	3	1	3	2.33	1.16
平均					2.33					2.67	

※は反転項目のため、回答を反転集計（数値が高いほどそのように思っていない）

- 学業に関する自尊感情はプログラム後に向上している。
- Q1-1がもともと高いことからも、自らの成績については比較的自信をもっているように捉えられる。

結果　問1.自尊感情（身体）の変化について

		プログラム前					プログラム後				
No.	質問項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Ｑ１－１４	私は、運動するのが好きだ。	3	3	4	3.67	0.58	3	1	4	3	1.73
Ｑ１－１６	運動のやり方がよく分からない。※	3	2	4	3	1.00	3	1	4	2.67	1.53
Ｑ１－１７	私は、運動があまり得意ではない。※	3	2	4	3.33	1.16	3	1	4	2.67	1.53
Ｑ１－２０	私は、運動ができるまでに時間がかかる。※	3	3	4	3.33	0.58	3	2	4	2.67	1.16
平均					3.33					2.75	

※は反転項目のため、回答を反転集計（数値が高いほどそのように思っていない）

- 身体に関する自尊感情は、すべての項目でプログラム後に低下している（活動を通して、活動前のイメージ以上に難しさを感じ影響したか？）

結果　問1.自尊感情（社会）について

		プログラム前					プログラム後				
No.	質問項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Ｑ１−６	私には、友だちがたくさんいる。	3	3	4	3.67	0.58	3	3	4	3.33	0.58
Ｑ１−９	自分から進んで友だちを作ることができる。	3	3	4	3.33	0.58	3	1	4	3	1.73
Ｑ１−１３	私は、いろいろな人と協力して活動できる。	3	3	4	3.33	0.58	3	3	4	3.67	0.58
Ｑ１−１９	私は、いろいろな人と話をしたり遊んだりするのが好きだ。	3	3	4	3.67	0.58	3	3	4	3.67	0.58
Ｑ１−２１	友だちは、私の意見や気持ちをよく聞いてくれない。※	3	1	3	2	1.00	3	2	4	2.67	1.16
Ｑ１−２２	私は、友だちと仲よくできない。※	3	2	4	3	1.00	3	3	4	3.67	0.58
Ｑ１ー２３	友だちは、私に話しかけたり、誘ったりしてくれない。※	3	1	4	2.33	1.53	3	3	4	3.67	0.58
Ｑ１−２４	私の話すことを、他の人はつまらないと思っている。※	3	2	3	2.33	0.58	3	3	4	3.67	0.58
平均					2.96					3.42	

※は反転項目のため、回答を反転集計（数値が高いほどそのように思っていない）

- 全体的にプログラム後に向上しており、特にQ1-21、Q1-22、Q1-23、Q1-24がプログラム後に向上している。（活動中のスタッフや仲間との関わり経験が影響したか？）

結果　問1.自尊感情（家族）について

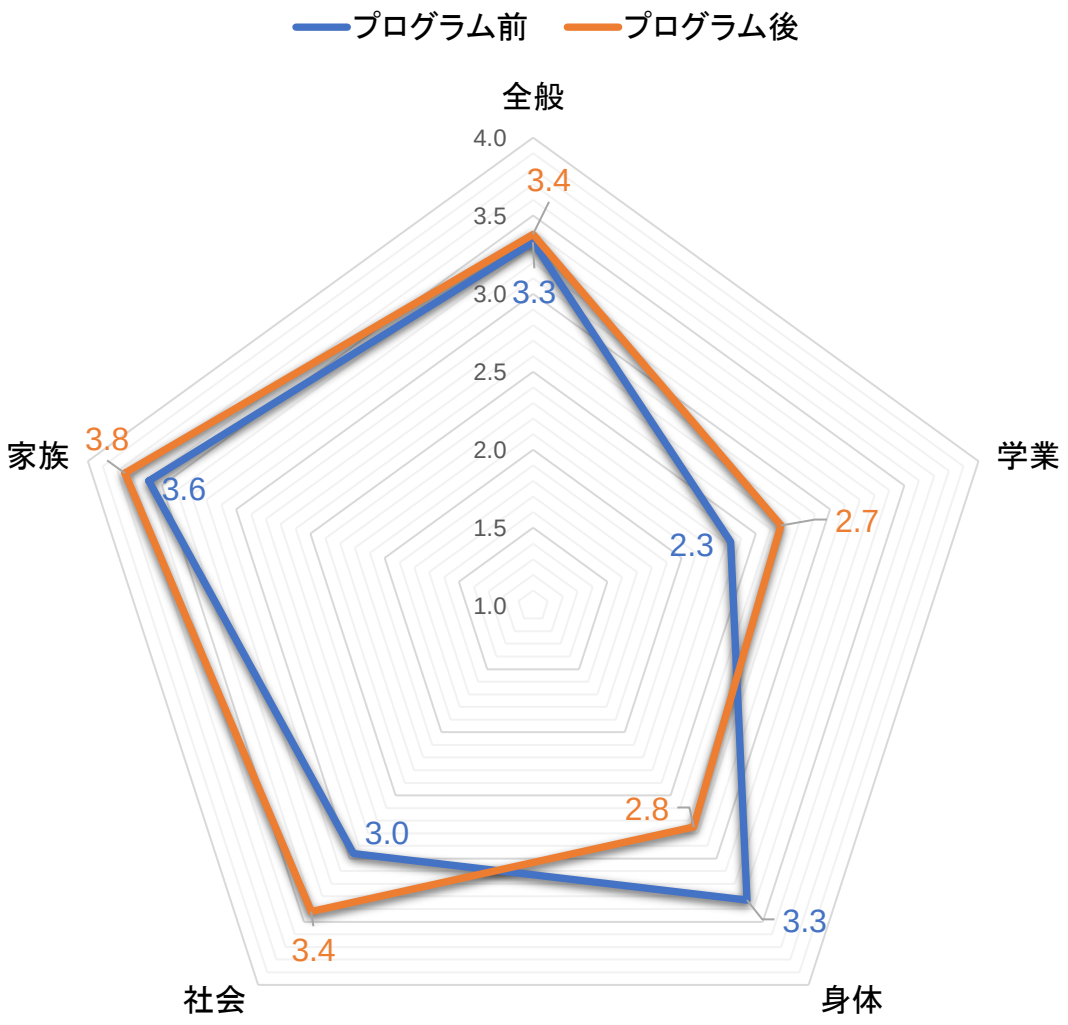
		プログラム前					プログラム後				
No.	質問項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Ｑ１－１１	私は、お家の人に大事にされている。	3	3	4	3.67	0.58	3	4	4	4	0.00
Ｑ１－１２	私は、お家の人と一緒にいることが好きだ。	3	4	4	4	0.00	3	4	4	4	0.00
Ｑ１－１５	お家の人は、私の話をよく聞いてくれない。※	3	3	3	3	0.00	3	2	4	3.33	1.16
Ｑ１－１８	お家の人は私のことをほめてくれる。	3	3	4	3.67	0.58	3	3	4	3.67	0.58
平均					3.59					3.75	

※は反転項目のため、回答を反転集計（数値が高いほどそのように思っていない）

- プログラム前後でそれほど大きな変化は見られない

結果　参加者の自尊感情に関する評価

	プログラム前	プログラム後
全般	3.3	3.4
学業	2.3	2.7
身体	3.3	2.8
社会	3.0	3.4
家族	3.6	3.8



結果　問2.生き抜く態度（自己肯定感）について

		プログラム前					プログラム後				
No.	質問項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Ｑ２－１	自分は、周りの人の役にたっている。	3	4	5	4.67	0.58	3	3	5	4	1.00
Ｑ２－６	自分には、よいところがある。	3	4	5	4.33	0.58	3	4	5	4.67	0.58
Ｑ２－１１	自分という存在をとても大切に思う。	3	4	5	4.67	0.58	3	4	5	4.33	0.58
Ｑ２－１６	自分は、周りの人に必要とされている。	3	3	4	3.67	0.58	3	4	4	4	0.00
Ｑ２－２１	自分に、自信がもてる。	3	4	5	4.67	0.58	3	3	5	4	1.00
平均					4.4					4.2	

- Q2-1とQ2-21がプログラム後に低下しており、全体としても低下している。（ただし、もともと平均として４を超える高い値であるため、問題とはいえない）

結果　問2.生き抜く態度（他者肯定感）について

		プログラム前					プログラム後				
No.	質問項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Ｑ２－２	人には、それぞれよいところがある。	3	4	4	4	0.00	3	3	5	4	1.00
Ｑ２－７	周りの人の気持ちを考えてから、話をしている。	3	3	4	3.67	0.58	3	4	5	4.67	0.58
Ｑ２－１２	周りの人を信頼している。	3	4	5	4.33	0.58	3	4	5	4.67	0.58
Ｑ２－１７	他の人の思いを大切にしている。	3	4	5	4.33	0.58	3	4	5	4.67	0.58
Ｑ２－２２	他の人のよいところがわかる。	3	4	4	4	0.00	3	3	5	4	1.00
平均					4.07					4.40	

- Q2-7がプログラム後にやや大きく向上している。（活動中のスタッフの関わり方に基づくものか？）

結果　問2.生き抜く態度（関係づくり）について

		プログラム前					プログラム後				
No.	質問項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Ｑ２－３	困った時には、頼りになる人がいる。	3	4	5	4.33	0.58	3	4	5	4.67	0.58
Ｑ２－８	周りの人を、もっと大切にしたい。	3	4	5	4.33	0.58	3	4	5	4.67	0.58
Ｑ２－１３	他の人と協力して、何かをすることが楽しい。	3	4	4	4	0.00	3	4	5	4.67	0.58
Ｑ２－１８	自分のことをわかってくれる人がいる。	3	4	5	4.33	0.58	3	4	5	4.67	0.58
Ｑ２－２３	自分の考えや気持ちを素直に話せる人がいる。	3	4	5	4.33	0.58	3	4	5	4.33	0.58
平均					4.26					4.60	

- 全体的にプログラム後に向上しており、なかでもQ2-13が向上している。（活動中のスタッフや仲間との関わり経験が影響したか？）

結果　問2.生き抜く態度（楽観的思考）について

		プログラム前					プログラム後				
No.	質問項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Ｑ２−４	何でもチャンスだと思って、やってみようと思う。	3	4	4	4	0.00	3	3	4	3.67	0.58
Ｑ２−９	できないことでも、とりあえずやってみようと思う。	3	3	5	4	1.00	3	4	5	4.67	0.58
Ｑ２−１４	失敗しても、また挑戦しようと思う。	3	3	5	4.33	1.16	3	4	5	4.33	0.58
Ｑ２−１９	困った時には、自分でやれることをやってみようと思う。	3	3	5	4	1.00	3	3	5	4	1.00
Ｑ２−２４	どんなことでも、努力すれば、なんとかなる気がする。	3	4	5	4.33	0.58	3	4	5	4.67	0.58
平均					4.13					4.27	

- Q2-9がプログラム後に向上している。（経験のない、少ない、サーフィンにチャレンジした影響か？）

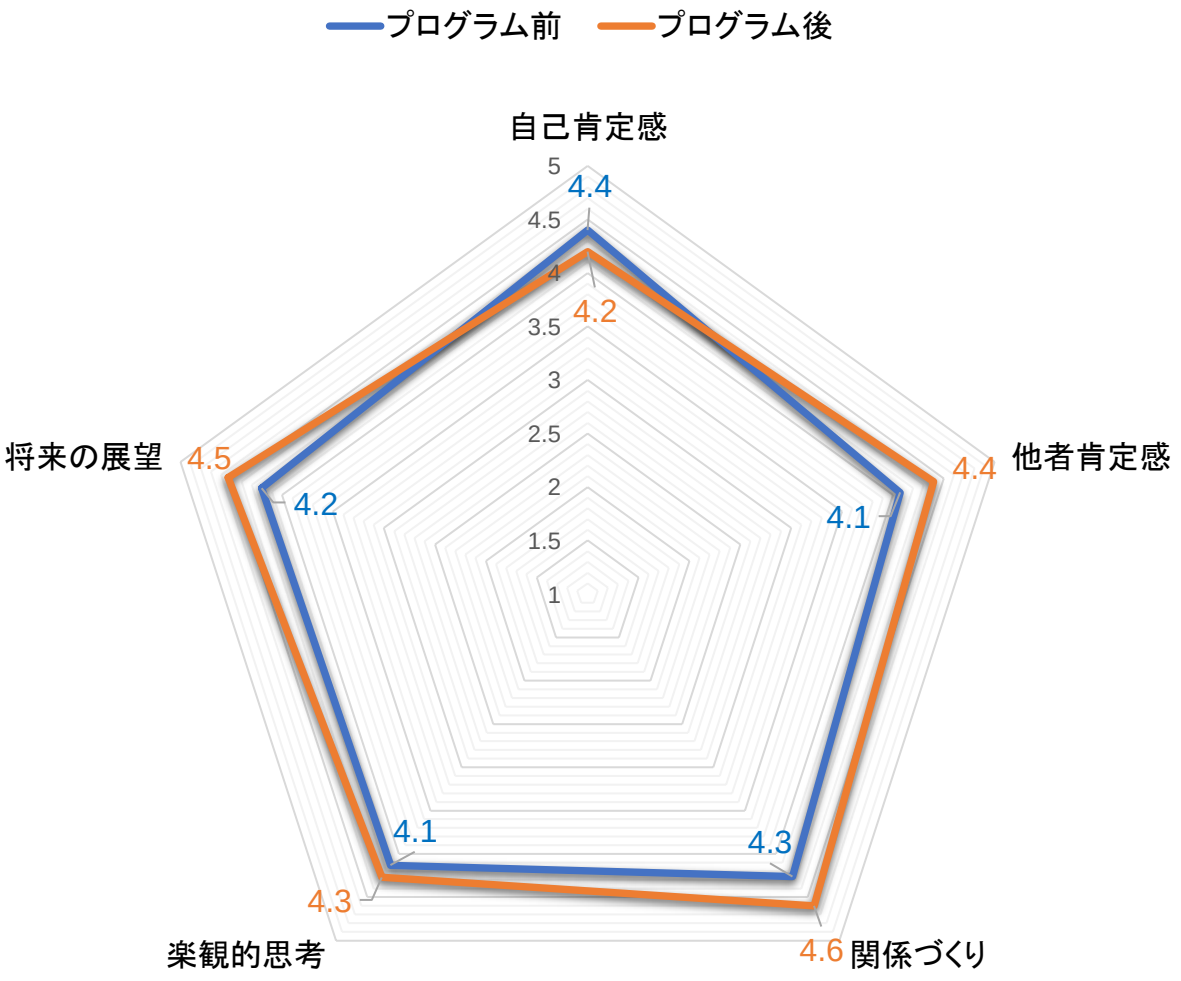
結果　問2.生き抜く態度（将来の展望）について

		プログラム前					プログラム後				
No.	質問項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Ｑ２－５	自分の将来に、希望をもっている。	2	3	5	4	1.41	3	4	5	4.33	0.58
Ｑ２－１０	自分の夢をかなえるために、今できることをしている。	3	4	5	4.33	0.58	3	4	5	4.33	0.58
Ｑ２－１５	自分には、将来いろいろな可能性があると思う。	3	3	5	4	1.00	3	4	5	4.67	0.58
Ｑ２－２０	将来の目標に向かって、努力している。	3	3	5	4.33	1.16	3	3	5	4.33	1.16
Ｑ２－２５	自分の将来は、明るいと思う。	3	4	5	4.33	0.58	3	5	5	5	0.00
	平均				4.20					4.53	

- 全体的にプログラム後に向上しており、なかでもQ2-15、Q2-25が向上している。

結果　参加者の生き抜く態度に関する評価

	プログラム前	プログラム後
自己肯定感	4.4	4.2
他者肯定感	4.1	4.4
関係づくり	4.3	4.6
楽観的思考	4.1	4.3
将来の展望	4.2	4.5



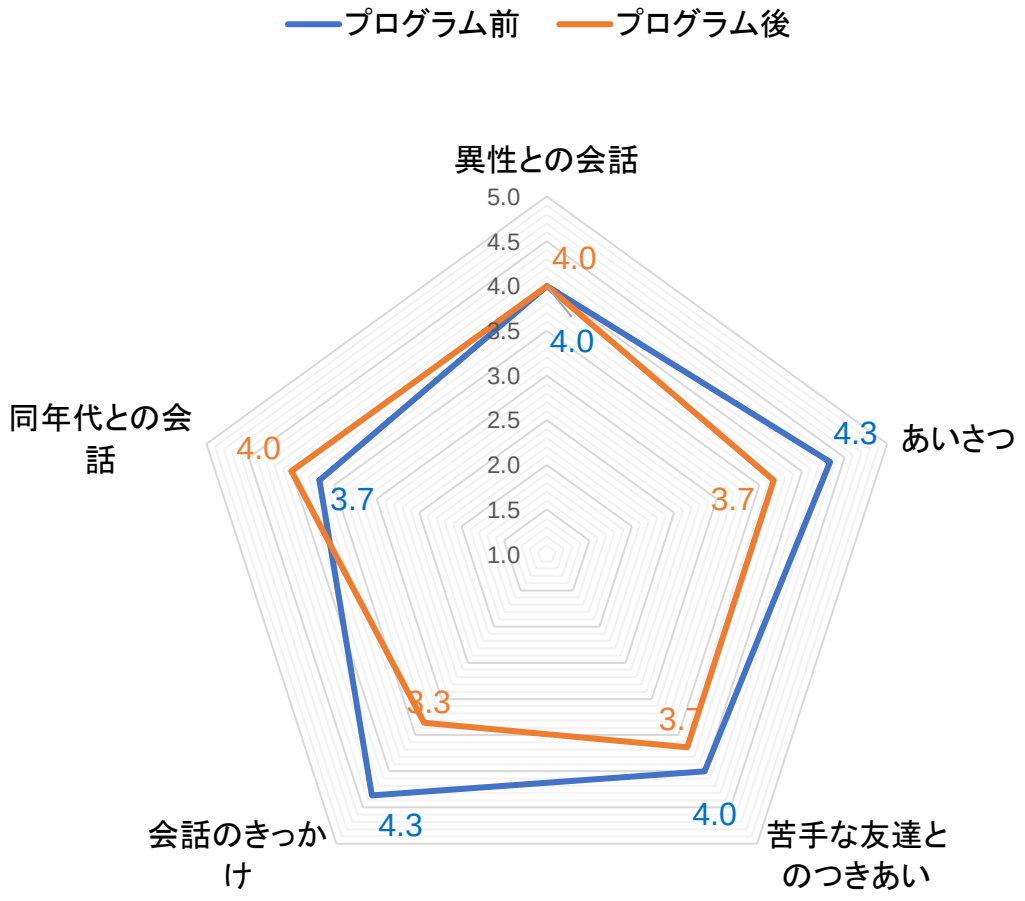
結果　問3.学校生活スキル（コミュニケーション）について

		プログラム前					プログラム後				
No.	質問項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q３－１	男子は女子と、女子は男子と自然に話すことができる。	3	4	4	4	0	3	3	5	4	1
Q３－２	きちんとあいさつできる。	3	4	5	4.33	0.577	3	3	4	3.67	0.577
Q３－３	苦手な友だちともつき合うことができる。	3	3	5	4	1	3	3	4	3.67	0.577
Q３－４	人にどう話しかけていいのか、どう会話を始めたらいいのかわかる。	3	4	5	4.33	0.577	3	3	4	3.33	0.577
Q３－５	自分と同じくらいの年の人と話すことができる。	3	3	5	3.67	1.155	3	3	5	4	1
	平均				4.07					3.73	

- 全体的にプログラム後に低下しており、なかでもQ3-2が低下し、Q3-4がやや大きく低下している。

結果　参加者の学校生活スキル（コミュニケーション）に関する評価

	プログラム前	プログラム後
異性との会話	4.0	4.0
あいさつ	4.3	3.7
苦手な友達とのつきあい	4.0	3.7
会話のきっかけ	4.3	3.3
同年齢との会話	3.7	4.0



結果　問4.自己効力感（学業達成）について

			プログラム前					プログラム後				
	No.	質問項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
教科	Q4−1	不得意な教科でも、できるようになりたいと思い、がんばれば、得意になれると思う。	3	2	4	2.67	1.16	3	3	4	3.67	0.58
	Q4−25	どんなに勉強しても、不得意な教科は、得意にはなれないと思う。※	3	2	4	3.33	1.16	3	3	4	3.33	0.58
授業	Q4−5	その気になれば、授業の内容はたいてい理解できると思う。	3	3	4	3.67	0.58	3	2	4	3.33	1.16
	Q4−13	その気になっても、学校の勉強は、なかなかわかるようにならないと思う。※	3	2	4	2.67	1.16	3	3	4	3.33	0.58
成績	Q4−9	がんばって勉強すれば、成績はよくなると思う。	3	2	4	3	1.00	3	2	4	3	1.00
	Q4−21	学校の成績は、いくら努力しても、良くならないと思う。※	3	1	4	2.67	1.53	3	3	4	3.33	0.58
テスト	Q4−17	努力すれば、テストで良い点をとれると思う。	3	3	4	3.33	0.58	3	2	4	3	1.00
	Q4−29	どんなにがんばってみても、テストでは悪い点しかとれないと思う。※	3	2	4	3	1.00	3	2	4	3	1.00
		平均				3.04					3.25	

※は反転項目のため、回答を反転集計（数値が高いほどそのように思っていない）

- 全体的にプログラム後に向上している。（サーフィンという難しい課題に取り組んだ自信が、学業面にも反映されたか？）

結果　問4.自己効力感（友人関係）について

			プログラム前					プログラム後				
	No.	質問項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
友達作り	Q４−２２	その気になれば友だちの一人や二人はすぐできると思う。	3	3	4	3.67	0.58	3	3	4	3.67	0.58
	Q４−１０	その気になっても、ともだちを作ることはむずかしいと思う。※	3	2	4	3	1.00	3	2	4	3	1.00
転校時の友達作り	Q４−２６	転校しても、ともだちを作ろうとがんばればすぐに友だちができると思う。	3	4	4	4	0.00	3	4	4	4	0.00
	Q４−２	転校したら、どんなに努力しても、ともだちはなかなかできないと思う。※	3	1	4	2.67	1.53	3	3	4	3.67	0.58
嫌いな人と仲良しになる	Q４−１４	その子のことを思い、努力すれば、きらいなともだちとも仲よくなれると思う。	3	3	4	3.33	0.58	3	3	4	3.67	0.58
	Q４−１８	どんなにがんばってみても、きらいな友だちとは仲よくなれないと思う。※	3	2	4	3	1.00	3	3	4	3.33	0.58
好かれる	Q４−６	好きな子にきらわれても、その子のためにつくせば、きっと好きになってくれると思う。	3	3	4	3.67	0.58	3	3	4	3.67	0.58
	Q４−３０	どんなに好きな子がいても、その子が自分をきらいなら、自分を好きにさせることはできないと思う。※	3	2	4	3	1.00	3	2	3	2.67	0.58
		平均				3.29					3.46	

※は反転項目のため、回答を反転集計（数値が高いほどそのように思っていない）

- 全体的にプログラム後にやや向上している。

結果　問4.自己効力感（運動）について

			プログラム前					プログラム後				
	No.	質問項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
不得意	Q４−１５	不得意な運動でも、うまくなりたいと思い、努力すれば、得意になれると思う。	3	3	4	3.33	0.58	3	3	4	3.67	0.58
	Q４−２３	どんなに努力しても、不得意な運動は、得意にはなれないと思う。※	3	2	4	3.33	1.16	3	1	4	2.67	1.53
能力	Q４−２７	その気になって練習すれば、ほとんどの友だちができる運動は、自分にもできると思う。	3	3	4	3.67	0.58	3	2	4	3	1.00
	Q４−７	その気になって練習しても、クラスのともだちと同じようには、運動できないと思う。※	3	1	4	2.67	1.53	3	3	4	3.67	0.58
体育の成績	Q４−３	がんばれば、体育の成績は良くなると思う。	3	4	4	4	0.00	3	4	4	4	0.00
	Q４−１１	体育の成績は、どんなにがんばってみても、良くならないと思う。※	3	1	4	2.67	1.53	3	3	4	3.33	0.58
練習	Q４−１９	練習すれば、いままでできなかった運動もできるようになると思う。	3	3	4	3.67	0.58	3	2	4	3.33	1.16
	Q４−３１	いくら練習したって、いままでできなかった運動ができるようにはならないと思う。※	3	1	4	2.67	1.53	3	3	4	3.33	0.58
		平均				3.25					3.38	

※は反転項目のため、回答を反転集計（数値が高いほどそのように思っていない）

- 全体的にプログラム後にやや向上している。

結果　問4.自己効力感（自己）について

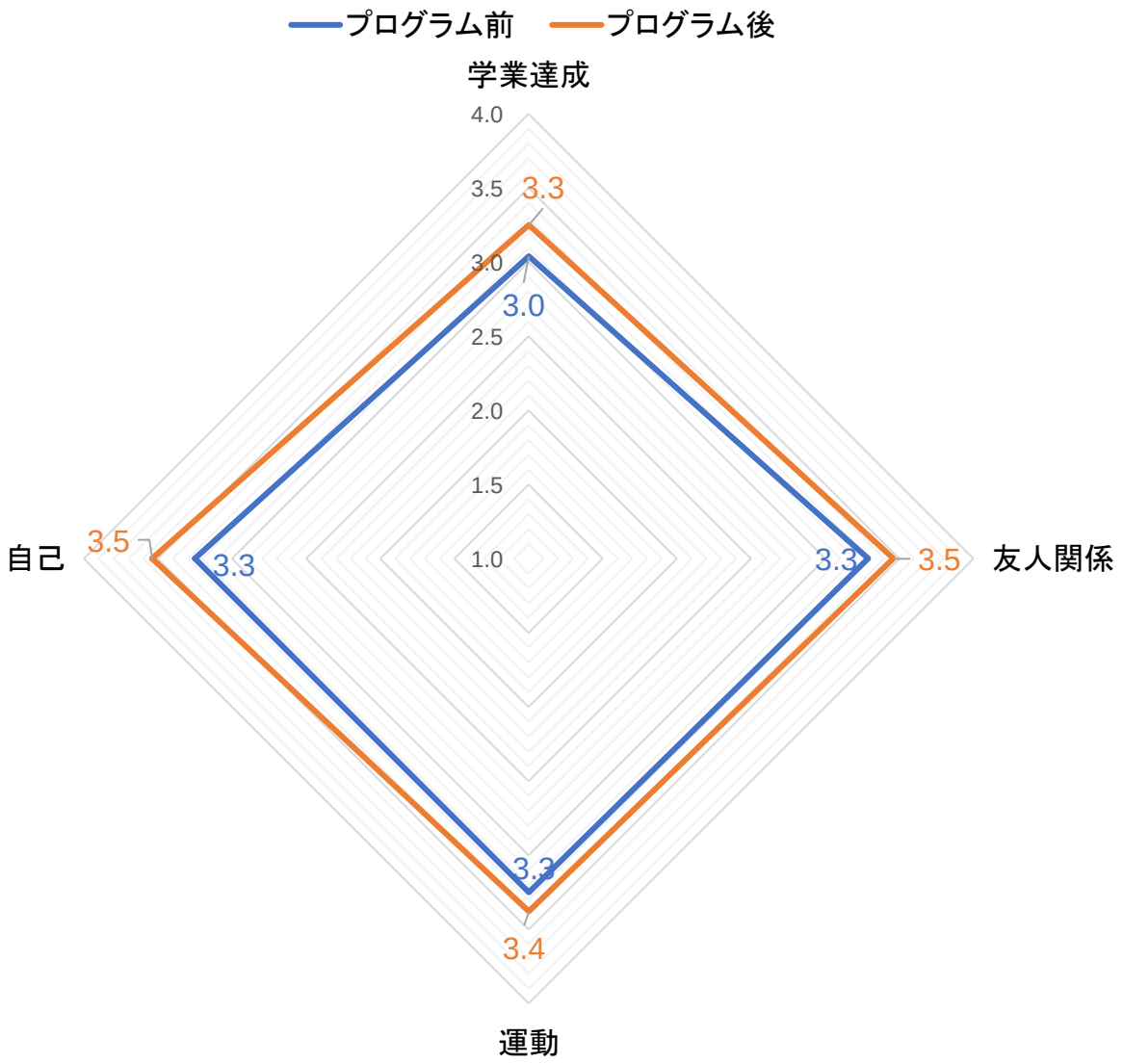
			プログラム前					プログラム後				
	No.	質問項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
人生	Q4-32	努力すれば、ある程度、自分の願っている人生があゆめると思う。	3	3	4	3.67	0.58	3	2	4	3	1.00
	Q4-8	いくら努力しても、自分の望んでいる人生はあゆめないと思う。※	3	1	4	2.67	1.53	3	4	4	4	0.00
幸福	Q4-16	現在不幸でも、その気になってがんばれば、将来幸福な生活ができると思う。	3	1	4	2.67	1.53	3	3	4	3.67	0.58
	Q4-20	現在不幸ならば、どんなにがんばっても、不幸は続くと思う。※	3	2	4	3.33	1.16	3	3	4	3.33	0.58
未来	Q4-12	がんばれば、明るい未来がひらけると思う。	3	3	4	3.67	0.58	3	4	4	4	0.00
	Q4-24	どんなにがんばってみても、自分には明るい未来はないと思う。※	3	1	4	3	1.73	3	1	4	3	1.73
生活	Q4-28	楽しい生活をもとめて努力すれば、きっとそうなると思う。	3	4	4	4	0.00	3	3	4	3.67	0.58
	Q4-4	楽しい生活は、どんなに努力しても、できないと思う。※	3	1	4	3	1.73	3	3	4	3.67	0.58
		平均				3.25					3.54	

※は反転項目のため、回答を反転集計（数値が高いほどそのように思っていない）

- 全体的にプログラム後に向上している。

結果　参加者の自己効力感に関する評価

	プログラム前	プログラム後
学業達成	3.0	3.3
友人関係	3.3	3.5
運動	3.3	3.4
自己	3.3	3.5



結果　問5.包括的ストレス反応（不安・緊張）について

		プログラム前					プログラム後				
No.	質問項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Ｑ５－１	前よりも、不安になる。	3	1	2	1.33	0.58	3	1	2	1.33	0.58
Ｑ５－９	前よりも、悲しいと感じる。	3	1	2	1.33	0.58	3	1	2	1.33	0.58
Ｑ５－６	前よりも、さみしく感じる。	3	1	2	1.33	0.58	3	1	1	1	0.00
Ｑ５－５	前よりも、落ち込んでいる。	3	1	2	1.33	0.58	3	1	2	1.33	0.58
Ｑ５－２	前よりも、びくびくしている。	3	1	2	1.33	0.58	3	1	2	1.67	0.58
Ｑ５－１３	前よりも、焦っている。	3	1	2	1.33	0.58	3	1	3	1.67	1.16
Ｑ５－１０	前よりも、自分のことが嫌になる。	3	1	2	1.33	0.58	3	1	2	1.33	0.58
Ｑ５－１４	前よりも、考えがまとまらない。	3	1	2	1.33	0.58	3	1	2	1.33	0.58
Ｑ５－１７	前よりも、緊張している。	3	1	2	1.33	0.58	3	1	2	1.67	0.58
平均					1.33					1.41	

- 全体的にプログラム後に不安・緊張が少し高まっている。

結果　問5.包括的ストレス反応（不機嫌・怒り）について

		プログラム前					プログラム後				
No.	質問項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Ｑ５－３	前よりも、不機嫌になる。	3	1	2	1.33	0.58	3	1	2	1.33	0.58
Ｑ５－１１	前よりも、いらいらする。	3	1	1	1	0.00	3	1	2	1.67	0.58
Ｑ５－１５	前よりも、不愉快な気分になる。	3	1	2	1.33	0.58	3	1	1	1	0.00
Ｑ５－７	前よりも、怒りを感じる。	3	1	2	1.33	0.58	3	1	1	1	0.00
					1.25					1.25	

- 全体的には変化は見られないが、Q5-11が高まっている。（反抗期等の年齢的な影響もあるのか？）

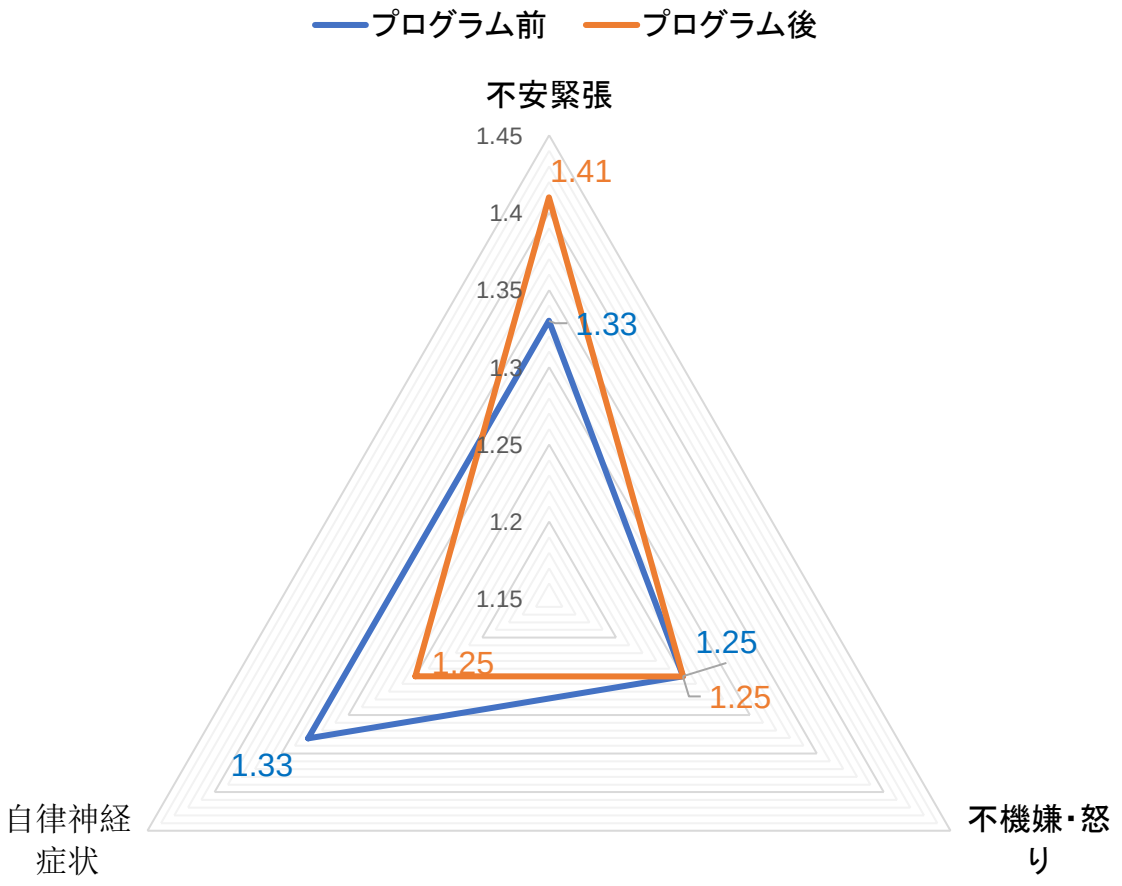
結果　問5.包括的ストレス反応（自律神経症状）について

		プログラム前					プログラム後				
No.	質問項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Ｑ５－４	前よりも、頭痛がする。	3	1	2	1.33	0.58	3	1	1	1	0.00
Ｑ５－８	前よりも、めまいがする。	3	1	2	1.33	0.58	3	1	1	1	0.00
Ｑ５－１２	前よりも、お腹が痛くなる。	3	1	2	1.33	0.58	3	1	2	1.33	0.58
Ｑ５－１６	前よりも、ドキドキする。	3	1	2	1.33	0.58	3	1	2	1.67	0.58
					1.33					1.25	

- 全体的には大きな変化は見られないが、Q5-4、Q5-8の症状はやや減少している。

結果　参加者のストレス反応に関する評価

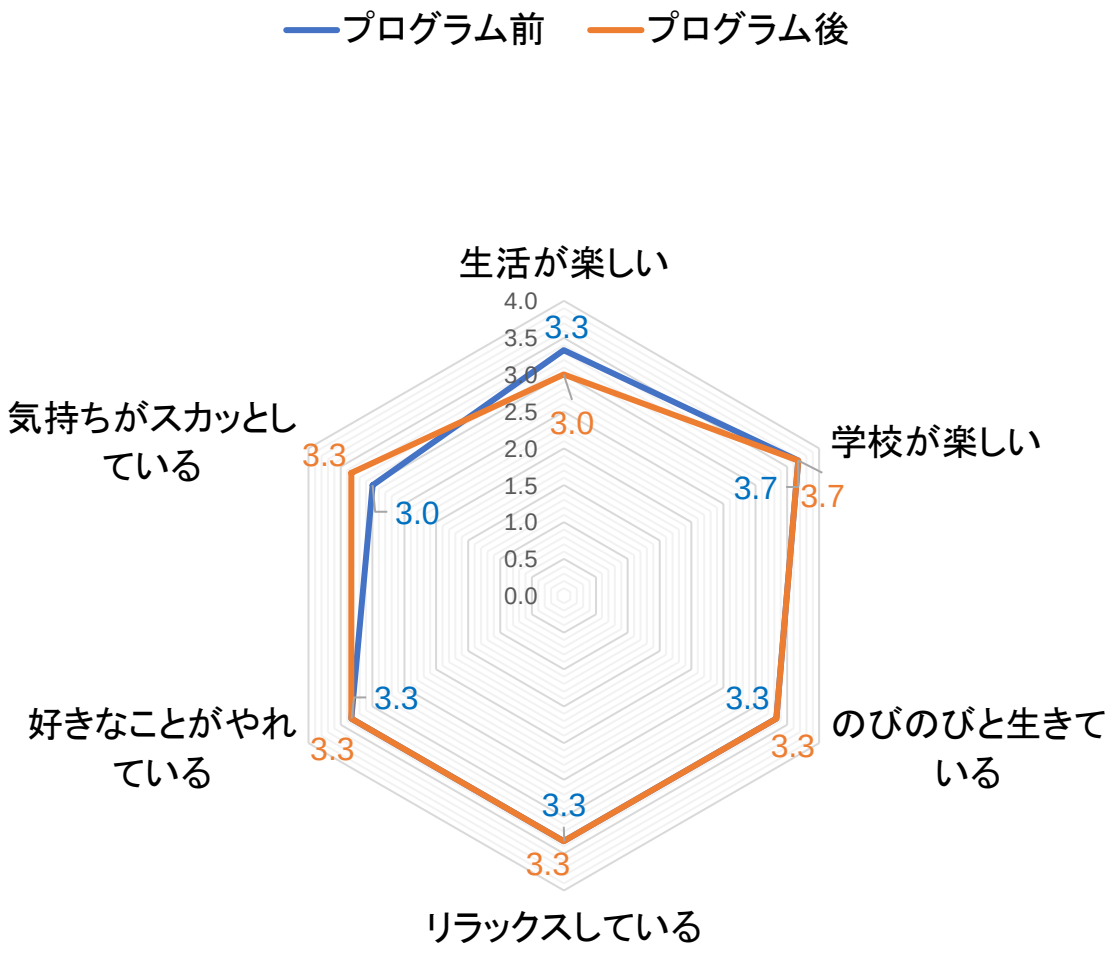
	プログラム前	プログラム後
不安緊張	1.33	1.41
不機嫌・怒り	1.25	1.25
自律神経症状	1.33	1.25



結果　問6.生活充実感について

		プログラム前					プログラム後				
No.	質問項目	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q６−１	生活がすごく楽しいと感じる。	3	3	4	3.33	0.58	3	2	4	3	1.00
Q６−２	学校は楽しい。	3	3	4	3.67	0.58	3	3	4	3.67	0.58
Q６−３	自分はのびのびと生きていると感じる。	3	2	4	3.33	1.16	3	3	4	3.33	0.58
Q６−４	精神的に楽な気分である（今、リラックスしている）。	3	3	4	3.33	0.58	3	3	4	3.33	0.58
Q６−５	自分の好きなことがやれていると感じる。	3	3	4	3.33	0.58	3	3	4	3.33	0.58
Q６−６	もやもやとした気持ちがなくスカッとしている。	3	3	3	3	0.00	3	3	4	3.33	0.58
平均					3.33					3.33	

- プログラム前後でそれほど大きな変化は見られない。

結果　参加者の生活充実感に関する評価

	プログラム前	プログラム後
生活が楽しい	3.3	3.0
学校が楽しい	3.7	3.7
のびのびと生きている	3.3	3.3
リラックスしている	3.3	3.3
好きなことがやれている	3.3	3.3
気持ちがスカッとしている	3.0	3.3